

海外安全対策情報（令和元年7月～9月）

1 社会・治安情勢

ベラルーシの治安は、おおむね良好ではあるものの、過去には爆発事件やショッピングモールでの通り魔事件も発生しています。不測の事態を避けるため、多くの人が集まる記念式典やコンサート、集会等においては十分に注意が必要です。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) ベラルーシ共和国内務省が発表した犯罪統計によれば、2019年1月1日から9月30日（2019年10月31日時点での最新情報）までのベラルーシにおける犯罪総数は66,679件で、前年同期と比較し6.5%増加しています。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗23,104件（前年比3.7%増）

（うち住宅対象侵入窃盗）6,017件（同7.4%減）

イ 公然窃盗1,099件（同3.3%減）

ウ 恐喝162件（同118.9%増）

エ 詐欺3,300件（同4.9%増）

オ 暴力犯罪3,703件（同22.3%増）

カ 殺人及び殺人未遂231件（同2.9%減）

キ 重傷傷害554件（同1.9%減）

ク 強盗97件（同増減なし）

ケ 強姦及び強姦未遂88件（同27.3%減）

(2) 邦人被害事案は報告されていません。

(3) 2019年7月～9月における主な被害事案は以下のとおりです(当地の報道から作成)。

ア 7月3日夜、ミンスク市内で独立記念日を祝う花火の破裂による破片飛散の結果、10人以上が負傷した。女性1人は応急医療処置をしたものの、事件現場で死亡した。その他、周辺の建物も損傷した。捜査当局によると、本件は花火の製品上の欠陥、誤った設置・使用による危険物取扱法違反である、としている。花火を設置した軍人も含めて、目撃者を取り調べ中である。

イ 7月19日昼、ミンスク市ボブレイスク通りで、酩酊状態で停留所以外の場所で集客をしていたミニバスタクシー運転手を交通警察が拘束した。この男は診療施設に引き渡され、検査の結果、血中から高濃度のアルコールが検出された。7月8日にはブレスト地区で、リ

ヴィウからブレストまで乗客を運んだミニバスの 54 歳の運転手も酩酊状態で交通警察に拘束された。この男の血中アルコールも高濃度であった。

ウ 8 月 15 日、ゴメリ市中央地区裁判所は、2018 年 12 月 14 日に子供ホッケー大会入口の所持品検査で刃物 2 本と斧を所持していたとして特別任務警察隊に拘束され、その後の家宅捜索では弾薬 24 個が見つかった 17 歳の少年に対し 2 年 6 ヶ月の自由剥奪の刑事判決を下した。なお、刑期は恩赦により 6 ヶ月となった。少年は罪を認めず、弾薬は死んだ祖父からもらった物で、形見として保管していただけだと説明している。

エ 8 月 17 日、ミンスク市衛生疫学局は、2019 年の 7 ヶ月間に販売された食品原料及び外食で提供された食品 2308 件を調査した結果、82%にあたる 1893 件が衛生伝染病関連の法律に違反していた、と発表した。同時に、3600 件の食料品を、微生物学・衛生化学・寄生虫学・毒物学の指標に基づき検査したところ、137 件が指標を満たさないことがわかった。その多くが乳製品、魚製品、西瓜類、ドライフルーツ、野菜サラダ、油製品、調理品であった。行政的責任に関する法令違反として、648 の公務員と法人に罰金を求め、264 に販売停止命令、735 に 9 トン以上の食料品流通停止を言い渡した。経営者宛てに、違反是正を求める 1174 の指示・勧告が出されている。

オ 9 月 7 日、ベラルーシ鉄道コンタクトセンター、ナフタン社、グロドノ窒素社、ミンスクの商業施設ダナモール等一連の施設に爆発物を仕掛けた、との予告メールが届いた。警察の爆発物処理グループと捜査グループが派遣されたが、爆発物は発見されなかった。また、捜査当局は、モギリョフにおいて予告メールを受信したパソコンの調査を行った。内務省によると 2019 年 1 月以降、国内で 35 件の虚偽通報があり、昨年同期比 2 倍以上の件数となった。8 月 19 日にはホテル「ユビレイナヤ」「ガルニ」「ブタ」「ビクトリア」「オリンピック」「ベラルーシ」「北京」、空港、鉄道駅、商業施設「ガリレオ」「ダナモール」「スタリツァ」、ポータルサイト「オンラインナー・バイ」編集部、ビジネスセンター「Rubin Plaza」、ベラルーシテレビラジオ局等、ミンスク市内の一連の施設宛に爆発物を仕掛けたとの虚偽のメールが届き 1 万人以上が避難したが、爆発物・危険物は発見されなかった。捜査当局は、犯人捜査は今後進展するだろうと見込んでいる。内務省のハイテク分野における犯罪捜査部門副責任者によると、爆発物設置メールの送信元はベラルーシ国外、とりわけ隣接する国や西欧からであることが多い、と指摘している。

カ 9 月 17 日、ミンスク市フルンゼンスキー地区捜査委員会は、7 月 1 日 13 時 20 分頃にフルンゼンスキー地区のオフィス入口のドアに放火し、数時間後に 30 歳の無職の男が警察に拘束された事件について、計画的な資産破壊・損傷であったとして捜査を終了した。犯人は再三服役を繰り返しており、犯行時酩酊状態であった。放火による損失額は 4,900 ベ

ラルーシルーブル以上に上った。取調べで、男は放火を行ったドアがある組織の責任者との対立が原因で犯行に及んだと説明し、罪を認め反省している。男は、ミンスク市ペルヴォマイスキー地区のガソリンスタンドで購入したガソリンをプラスチック製容器に入れて地下鉄で運び、犯行に及んだ。ガソリンスタンドとミンスク地下鉄の経営者は、犯罪幫助に関する法令違反の予防についての報告を行った。ガソリンスタンドの従業員は懲戒処分を受けた。地下鉄の安全サービス検査官の1名は罰金刑を科され、もう1名は解雇された。

3 テロ・爆弾事件の発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件の発生状況

なし。

5 日本企業の安全に関する諸問題

なし。

※上述の事案は全体の一部の情報です。定期的に報道などを確認し、自身の安全確保に努めてください。